

**第9回静岡国際オペラコンクールが、10月28日からアクトシティ浜松大ホールで開催されます。**

今年の夏は、とても暑かったですね（まだ暑いですが）。夏休みは楽しく過ごせましたか？中学生も高校生も、3年生にとってこの時期は、将来を決める大切な時かと思えます。コンクールに臨むオペラ歌手も、同じような気持ちでこの夏を過ごしたことでしょう。皆さんの夏休みと同じように、各地のオペラ劇場の多くが8月はお休みし、9月から始まる新しいシーズンの準備をしています。また、ザルツブルクやバイロイトなど、有名な音楽祭が開催されるのも8月が中心です。コロナ明けの各地の音楽祭も盛り上がったことでしょう。

### ちょっと特殊な第2次予選

オペラコンクールの第2次予選ってちょっと、いえすごーく特殊なんです。なにしろ、1つのオペラが体に染み付いていないとできないんですから。コンクールの応募要項には「第2次予選自選役リスト」というものがあります。出場者は、このリストから、自分が歌う「役」を選びます。例えば、「ロミオとジュリエット」というオペラのジュリエット役を選んだとします。通常オペラ公演には登場人物がたくさん出てきますが、コンクールでは1人で演じなければなりません。ロミオがその場にいるように愛をささやき、ロミオの死を嘆き自ら命を絶つ。完璧に歌える歌唱力だけではなく、演技力・表現力・経験も問われる難易度の高い審査です。「言葉のキャッチボール」という言葉がありますが、オペラも相手が歌ってそれに応えて歌う。そんな場面でも一人なんです。過去の出場者の中には、第1次予選で素晴らしい声を披露した人でも、第2次予選になると、全く歌えなくなったという人がいました。そんな中にも、強い味方がいます。それは、一緒にコンクールのステージに登場しているピアニストです。詳しくは、次回お話ししますね。

#### 過去の第2次予選の様子



表情豊かな演技や歌唱で、  
第2位となったり・アオさん（中国）



死にゆくさまを表現した  
森野美咲さん